

科目名称：	美文字演習（美術学科）	
担当者名：	氣谷 裕美	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
筆文字ロゴデザインやコミュニケーションツールとして活用が期待される筆文字・アート書道でイメージ力と表現力を養い、感性豊かな手描きの筆文字を描けるようにする。さまざまな描き方や技法を使いより表現力と描写力を高める。古代文字は文字の起源や歴史を学びながらアート化する楽しみを体得し独創性を養う。名前の詩はインスピレーションや洞察力を駆使し言葉の贈り物を作詩できるようにする。		
授業の達成目標・到達目標		
言葉の力、文字の力で普段伝えられない気持ちや思いをオリジナリティ溢れる文字や文章にして表現できるようになる。多種多様な描き方を習得することでクリエイティブな可能性を広げる。		

美術学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、美術を通して様々な価値観を持つ他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、美術を通して、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	美術の分野において基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用し表現していくことができる。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
美術DP(1)					0
美術DP(2)					0
美術DP(3)			80	20	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	デザイン業	23年
	筆文字・アート書道	11年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
イメージ力と表現力	感性豊かなイメージ力でクオリティの高い表現力がある	イメージ力が優れていて高い表現力がある	イメージ力が優れていて、ある程度の表現力がある	イメージ力が乏しく、表現力もない
文字や技法の描写力と再現力	優れた観察力と技術をもって習得した技法等をうまく描写・再現できる	高い観察力と技術をもって、習得した技法等を描写・再現できる	習得した技法等のある程度描写・再現できる	見本の文字や技法の通り描写・再現できていない
独自性	独創的で魅力がある。色彩感覚、デザインともに非常に優れている	個性的で発想力があり、デザイン、全体バランスともに優れている	個性が発揮されていてデザイン、全体バランスともに良い	個性が発揮されておらず、工夫がない
意欲と達成度	意欲的に取り組み、指示よりも上をいく優れた達成度がある	意欲的に取り組み、優れた達成度がある	意欲的に取り組み、課題を達成している	取り組む意欲が低く、課題が未完成の部分がある

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1週 線の練習。基本的な描き方と色々な文字の描き方	筆文字アートの種類について理解しておく	30分
第2週 イメージ力を養い、表現力を高める描き方(情景や物の形を描写)とオリジナル描写課題完成	描き方の練習(イメージの予習復習)をしておく	30分
第3週 イメージ力を養い、表現力を高める描き方(感情を描写)オリジナル描写課題完成とハガキ作品完成	ハガキサイズでの表現をイメージしておく	30分
第4週 イメージ力を養い、表現力を高める描き方(動詞を描写)字間や行間を調整しながら色紙課題作品を完成	色紙サイズでの表現をイメージしておく	30分
第5週 にじみ・ぼかし・しぶき・破墨法の技法を使った文字の描き方。ハガキサイズ課題作品を完成	水墨画の技法や筆の使い方を調べておく	30分
第6週 かすれ・スパッタリングの技法を使った文字の描き方。特殊な文字の描きかた。ハガキサイズ課題作品を完成	筆さばきや墨絵の技法を調べておく	30分
第7週 習得した技法と一筆混色法を使い、墨と絵の具で表現する。ハガキサイズ課題作品を完成	水彩画や顔彩での描写テクニックを予習復習しておく	30分
第8週 習得した技法で文字とイラストを一体化させた筆文字をデザインする。ハガキサイズで作品完成	今まで習得した技法と筆使いや水分量調節を予習復習しておく	30分
第9週 たらし込み技法を使った文字の描き方。文字+模様・文様のオリジナルハガキ作品完成	琳派の描写を調べておく	30分
第10週 古代文字アートを描く(漢字編) ハガキサイズオリジナル作品を完成させる。ディスカッション可	漢字の字源を調べておく	30分
第11週 古代文字アートを描く(世界編) ハガキサイズオリジナル作品を完成させる。ディスカッション可	トンパ文字の存在を理解しておく	30分
第12週 古代文字アートと異質素材を使ったオリジナル作品を完成させる。ディスカッション可	描きたい古代文字を調べておく。使いたい素材を揃えておく	60分
第13週 太筆で技法を使いより表現力のある描き方オリジナル色紙作品完成	以前のイメージ力と表現力の課題を見直す	30分
第14週 名前の詩の資料づくり。ハガキサイズのオリジナル作品を完成	言葉の資料づくりの参考にする詩集・文集・歌集等を選考し持参する	30分
第15週 名前の詩(色紙サイズ)のオリジナル作品を完成。ディスカッション可	詩のイメージを考えてまとめておく。気に入った詩集・文集・歌詞があれば持参する	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。

提出する課題作品 80%。 授業への参加度 20%。

課題に対してのフィードバック

提出課題を(ルーブリック等で)評価し、文面と口頭コメントを添えて返却

教科書・参考書

プリント配布。参考書については必要に応じて紹介する。